

北陸こども環境特別セミナー2011 報告

1. はじめに

北陸こども環境研究会は、「北陸こども環境セミナー2011」を9月3日、4日の二日間、富山にて開催した。開催目的は、北陸富山のこども環境について全国各地の研究者・実践の方と富山の実践の方との知的交流を図り、かつ富山で大いなる実践を楽しむものである。

こうした呼びかけにお集まりいただいた方々は、全国から研究や実践家が15名、地元富山からは親子も含めて104名であった。実践・研究を対象とした第一部、親子を対象とした第二部に分け、延べ人数161人（実人数119人）により、本セミナーは大いに盛り上がった。ここに報告する。

テーマ：『再考 子どもが育つ環境とは』

日程：9月3日（土）14:00-17:30

講演会、シンポジウム 70人

9月4日（日）10:00-15:00

親子あそびワークショップ 104人

場所：富山県呉羽青少年自然の家

共催：NPO 子ども遊ばせ隊、

エデュケーレ富山読者会準備会

2. 趣旨説明 14:00-14:05

早川実行委員長から趣旨説明が次のようにあった。「最近、こどもを取り巻く環境にこどもらしさがなくなっているのではと思うくらい危機的な状況にあります。そこでここでは、原点に戻って、子どもの育つ環境に何が本当に大切なのか、親子あそびのワークショップなどを学ぶことにします。」

3. 基調講演 14:10~15:20

演題：『環境教育と子どもの育ち』

講師：小澤紀美子（東京学芸大学名誉教授・東海大学教授、こども環境学会会長）



講演会会場風景

「幼児期から草花や小さな生き物に触れるという自然体験は、本来人間がもっている五感を刺激し、好奇

心をはぐくみ、感動を知り、豊かな感受性の発達をうながす基本的な要素である。さらに生活体験や社会体験を積み重ねていくことにより、想像力や創造性が培われていく。」とポイントを指摘して、子どもの育ちと環境教育についてスライドを交えながら講演された。



熱弁の小澤会長

4. シンポジウム 15:30~17:30

テーマ：『再考 子どもが育つ環境とは』

登壇講師の多様・多彩・多才ゆえにシンポジウムの方式ではなく個人発表の形式をとることになり、富樫・栗原の司会進行のもとに進められた。

4.1 寿崎かすみ（龍谷大学）

：「イマドキの子ども、北摂の住宅地でみられる光景——大規模マンション・公園・携帯・ゲームと犬と猫」JR北陸線の運休のため欠席となった。講師は「千里ニュータウンを少しはずれた昭和40年代からの所謂スプロール住宅地で、日々みられる子どもたちの様子を報告する」と張り切っておられただけに、残念であった。

4.2 栗原知子（福井大学）：「フィンランドの保育環境——第3回子ども環境セミナーツアーに参加して」

2010年9月の標記視察ツアーで、障害者や障害児がどのような施設で生活を送るか、図書館等の公共施設ではどのように障害者をサポートしているか、またその支援者を養成する大学ではどのような教育が行われているか、をつぶさに見たとのことで、その概要が報告された。

4.3 中山豊（こども環境学会事務局長）

：「こども環境学会の活動について」

こども環境学会とはどのような団体で、どのような活動をしているのか、懇切丁寧に説明された。また、学会主催の「子どもが元気に育つまちづくり 東日本大震災復興プラン国際提案競技”知恵と夢”の支援」を実施し9月に展示会を行い、このうち印象的な優秀作品をパワーポイントで紹介した。

4.4 早川隆志 (NPO 子ども遊ばせ隊)

：「発達障害と遊び」

氏の持論が二点紹介された。第一として「利便性の高い社会の中で、日本人は伝統的子育てを忘れた。大人が忙しさのあまり子どもとのふれあい遊びを忘れ、子どもたちの発達の不全が進んでいる」、第二として「大人と子供が自然に遊び始めると、大人が子どものかいいさに気づく。この気づきが子供の発達につながっていく」と。この後、遊びの効用を実体験するとして、皆さんで皿回しを楽しんだ。

4.5 石永裕明 (岡部)

：「作り手から見た遊具の安全確保の取り組み」

リスクとハザードの考え方や事故事例や海外遊具類から学ぶハザード低減の処置例が紹介され、遊具の作り手集団としての現在の安全・安心活動状況と次のステップとしての将来ビジョンが説明された。

4.6 丸谷芳正 (富山大学)：「子ども環境、雑感」

これまで依頼を受けて制作した野外遊具や大学の授業の一環で学生と一緒に制作した椅子や机等の家具について制作状況と共に雑感が述べられた。

4.7 宮里和則 (日本ダンゴムシ協会)

；「今なぜダンゴムシなのか」

「ダンゴムシは地球を守る大切な仕事をしています。ダンゴムシと遊ぶことで子どもたちには地球を守る心が育ちます。」と力説された。

4.8 富樫豊 (建築人)：「子どもの形態認識について」

子どもの成長にあわせた形態認識過程について述べ、皆さんとともに図形認識を楽しんだ。

5. 親子あそびワークショップ

早川ファシリテーターから「こども環境学会の先生方の遊びの世界に触れて、親子コミュニケーションしましょう。いっぱい遊んで心も体も元気になりましょう」と趣旨説明があった。

続いて、ワーキングショップの概要説明として本日の遊びのメニューが紹介された。



早川達人から遊びの極意を聞く親子の皆さん

その後、各遊びのブースが設営され、参加者は各ブースへと集まった。ただし、ダンゴムシの企画は午後からとなった。



プラトンボ

5.1 プラトンボと皿回し：早川隆志

プラトンボとは、プラスチックの短冊をプロペラのように湾曲させ短冊の中心に棒を取り付けたいわゆる(プラスチック製)竹トンボのことである。早川達人のもとで、皆さんは、プラトンボを作り、広い会場で飛ばしあい楽しんだ。また、皿回しも楽しんだ。



皿回しをたのしむ

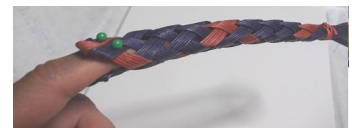
5.2 指ハブ

：臺蔵光子

これは、二色の帯状の素材を三つ編みのように編んでつくられた沖縄の郷土玩具「指ハブ」である。ロビーに集まった皆さんは、田口達人の指導のもと、指ハブを制作し、実際にへびに指をかませて遊んだ。



指ハブ製作中



指ハブを指にかます

5.3 紙芝居で遊ぼう：飯田美智子

主婦紙芝居師飯田達人による紙芝居である。昔ながらに観客と芝居師との絶妙なコミュニケーションを図りながらの芝居演技で、皆さんで大いに楽しんだ。

5.3 「ノーム自然環境教育事務所の活動」：坂本均

坂本達人は福井の山の中で自然教育を実践している。皆様に活動を知っていただこうと、器材持参で会場に



映画鑑賞

来られ、多くの実践家と映画鑑賞をし、その後、意見交換を行った。

5.4 ブーメランづくり：丸谷芳正

丸谷達人はブーメランを紙でつくり、飛ばして遊ぼうと皆さんに呼びかけ、子供が多数集まって楽しんだ。これもプラトンボと同じで羽の湾曲具合がポイントであるが、各自、達人から手ほどきを受けてコツを習得し、飛ばして遊んだ。



ブーメランづくり、教えを乞う

5.5 ダンゴムシあそび：宮里和則

会場の外庭にでかけ、実際にダンゴムシを見つけ採取し、近くの土間のある東屋で4-5人ほどのグループに分かれ、数チームごとに、地面に直径60cmほどの円を描き、円の中心に各自のダンゴ虫を置き、早く円から出たほうが勝ちという、ダンゴムシレースを行った。各チーム勝ち抜いてきたダンゴムシは準決勝、決勝とコマを進めて、追いに遊ぶものであり、参加した親子の皆さんは大いに楽しんだ。



ダンゴムシ探し

6. おわりに

一日目では大いに勉強し、二日目では大いに親子遊



ダンゴムシが土俵中央に登場

びを満喫した。遊びがこうも楽しめるものかと、遊びの効用を再認識した。そして、本セミナーの結論といふべき「子どもの育ち再考は、遊び体験の積み重ねから」を身をもって体験し理解したと思っている。

なお、会期前には台風12号が本土を縦断中であり、開催が大いに危ぶまれたが、県外の方の台風をもともしない気迫が功を奏してか、台風は富山から外れ、セミナーが開催できた。皆様の心意気に感謝申し上げます。また、雨模様にもかかわらずご参加いただいた親子の皆様方にも感謝申し上げます。

付録 懇親会

初日の部が終わった後に、オプションで19名が八尾おわら風の盆に参加した。一行は、八尾の旧市街地に近い民宿でまずは宴会を行い、そのあと、街に繰り出して、おわら盆踊りを堪能した。

興奮冷めやらぬ若い方々は、一晩中踊るおわらを夜中にも堪能し、しかも早川氏、栗原氏はいうにおよばず小澤会長までが朝5時まで歓談を続けたという。

大変和やかな懇親であった。



八尾の民家にて夕食会